

# B型肝炎ワクチン予防接種説明書

〈B型肝炎ウイルスの予防〉

## B型肝炎とは？

B型肝炎（HB）ウイルスの感染を受けると、急性肝炎となりそのまま回復する場合もあれば、慢性肝炎となる場合もあります。一部劇症肝炎といって、激しい症状から死に至ることもあります。また、症状としては明らかにならないままウイルスが肝臓内部に潜み、年月を経て慢性肝炎・肝硬変・肝がんなどになることがあります。ことに年齢が小さいほど、急性肝炎の症状は軽いかあるいは症状はあまりはつきりしない一方、ウイルスがそのまま潜んでしまう持続感染の形をとりやすいことが知られています。

感染は、HBウイルス（HBs抗原）陽性の母親から生まれた新生児、HBウイルス陽性の血液・体液に直接接触したような場合、HBウイルス陽性者との性的接触などで生じます。

## 接種について

B型肝炎（HB）ワクチンによる予防は、ことに小児の場合は肝炎の予防というより、ウイルスの持続感染を防ぎ、将来発生するかもしれない慢性肝炎・肝硬変・肝がんを防ごうとすることが最大の目的です。

母子感染予防のために抗HBs人免疫グロブリンの投与に併せて組み換え沈降B型ワクチンの投与を受けたことのあるお子さんは、対象者から外れます。

対象者	標準的な接種期間	回数	間隔
1歳に至るまでの間にある者	生後2ヵ月に至った時から生	初回：2回	27日以上
	後9か月に至るまでの期間	追加：1回	第1回目の注射から139日以上

※対象者の範囲から外れてしまうと定期接種として受けられなくなり、費用負担が生じます。

## 副反応について

HBワクチンの副反応は、これまでの成績では接種を受けた者の10%前後に倦怠感、頭痛、局所の腫脹、発赤、疼痛などがみられたと報告されていますが、新生児、乳児についても問題はなく行われています。

また、医療機関から副反応の疑い例として報告されたうちの重篤症例の発生頻度は、0.00078%です。